

一席 沖縄県知事賞

千原への思い——銀色の里——（二幕五景）

南原 あい

〈あらすじ〉 沖縄戦で家族六人と故郷を失った勝三は、従兄の武男に生きる道の開き方を教わりながら成長する。故郷の千原は米軍に奪われたが、戦死した父親の千原でのエイサー姿は心に残っていた。千原エイサーへの思いは千原の人々の心の支えでもあった。そして、物の無い戦後、北谷村から分村した嘉手納村誕生を祝う分村祝で、缶太鼓の千原エイサーを復活させる。

六七年後の二〇一六年夏、勝三は年老いたが、子や孫、曾孫と共に千原エイサーは健在だった。孫の海人は、今問題の高江へリパッド建

設阻止の運動に参加する、武男の孫の直樹が気になっていた。米軍基地を拡大する為のヘリパッド建設は、嘉手納飛行場拡大で故郷を失った千原と重なる。そんな中、国頭村辺戸岬の東海に、故障の多いハリアーが墜落。エイサーの仲間達の怒りが盛り上がる。が、千原エイサーでの文化外交を通し、各国と繋がりたいと願う。

## 登場人物

### 一幕

- 勝三 (16才)  
武男 (20才、勝三の従兄)  
少年 (10才前後)  
隣人 (40才前後)

二幕

勝三（83才）

健一（60才、勝三の息子）

伴子（58才、健一の妻）

陽子（郷友会女性部長）

勉（65才、武男の息子）

海人（34才頃、健一の息子）

直樹（31才頃、勉の息子）

竜太（12才、健一の孫）

青年1（エイサー仲間）

青年2（"）

青年3（"）

その他、郷友会の人々

一幕 一景

一九四九年。北谷村から分村された嘉手納村のアシビナー。20才の武男と16才の勝三

武男 北谷から別りてい嘉手納村ぬ誕生。村あぎていぬ御祝儀ぐすいじすんでいさ。

勝三 分村祝んでいち、皆嬉ぬさしみそーち：あんしがよーさい、何故ぬんでいち分村さびーがやー。戦争んじ、うっさぬ人達ちゆぬちやーが亡ましみそーち、只にんちよーん人口や減いき少くらなとーいびーしが…。

武男 勝三、汝いやーが言いゆる通いやさ。我んにんあ

ん思とーん。やしがよし、北谷村役場ぬ  
地やアメリカ軍ぬ基地なてい、村二ちん<sup>た</sup>  
かい裂かつてい、仕方ねーらん北玉ん  
かい仮ぬ役場移ちやしが、基地内ぬ近道  
や自由に通りーたん。やしが去年ぬ<sup>くじゆ</sup>  
五月<sup>ぐんぐわち</sup>、飛行場んかいや全面立ち入り禁  
止なてい此所<sup>くま</sup>からや廻い道さんでーなら  
ん。

かんせー仕事ん<sup>しうじゆ</sup>滞くーてい、行政ぬ立  
ち行かんでいち、北谷村会議んかい掛き  
てーる風儀<sup>ふうぎ</sup>。うぬ議会んじ満場一致し分  
村ぬ決またんでいさ。

あね、北玉んかい通とーたるイリーぬ<sup>かゆ</sup>  
知花さんが、どうく不便なてい かんせ

ーならん仕事どーし、小言そーみせーた  
せー。

勝三 やいびーたん。中通りぬ花城さぬんあ  
ん言ちよーみせーたん。

武男 今なまからどうやんどー。千原せんばるぬ人はじみ  
嘉手納かてな一帯ぬ人達が戻ていめんせーねー  
人口うふん多くなてい、また、基地ぬ有くと  
う軍作業ぬ仕事探めーいる人達ちゆぬちやがあまく  
まから集まていちーねー、嘉手納村かてなや必  
じ栄さけいん。

勝三 疎開そーみせーたる人達や、戻ていめ  
んそーちん、自分達地どしうなや無ねん。生まりジ  
マンかいや戻むどららんどーあくどー、今、  
他ゆずジマンじ暮ち、落ていちちよーる人達

や、戻ていめんせーがすら…。

武男 いい。必<sup>かな</sup>じ帰<sup>け</sup>ていめんせーん。他んじ

暮<sup>あど</sup>らちん、生<sup>あど</sup>まりジマ忘<sup>わし</sup>る筈<sup>はせ</sup>無<sup>あど</sup>らん。後<sup>あど</sup>

後<sup>あど</sup>帰<sup>け</sup>ていめんせーん。

勝三 戻ていめんせーちん、なー千原や跡か

たん無<sup>あど</sup>らん。ちやつさが肝病<sup>あど</sup>まちやら…。

…今<sup>あど</sup>までに戻ていめんせーちやる人<sup>あど</sup>達<sup>あど</sup>ん、

字<sup>あど</sup>嘉<sup>あど</sup>手<sup>あど</sup>納<sup>あど</sup>ぬ地<sup>あど</sup>域<sup>あど</sup>んか<sup>あど</sup>い住<sup>あど</sup>と<sup>あど</sup>ーん<sup>あど</sup>で<sup>あど</sup>い<sup>あど</sup>る<sup>あど</sup>む

んぬ…。

武男 あんしん帰ていめんせーん。我<sup>あど</sup>達<sup>あど</sup>祖<sup>あど</sup>先<sup>あど</sup>

ぬ千<sup>あど</sup>原<sup>あど</sup>魂<sup>あど</sup>持<sup>あど</sup>つち<sup>あど</sup>よ<sup>あど</sup>ー<sup>あど</sup>る<sup>あど</sup>人<sup>あど</sup>達<sup>あど</sup>が<sup>あど</sup>帰<sup>あど</sup>て<sup>あど</sup>い<sup>あど</sup>め<sup>あど</sup>ん

せーねー、今<sup>あど</sup>開<sup>あど</sup>墾<sup>あど</sup>そ<sup>あど</sup>ー<sup>あど</sup>る<sup>あど</sup>土<sup>あど</sup>地<sup>あど</sup>ん、人<sup>あど</sup>ぬ<sup>あど</sup>住

まりーる<sup>あど</sup>如<sup>あど</sup>、早<sup>あど</sup>ま<sup>あど</sup>い<sup>あど</sup>る<sup>あど</sup>筈<sup>あど</sup>。

勝三 あんなれーましやいびーしが…。

武男 いい。今、小村やしが、くぬ先、是非

とん栄らさんでーならんでいち、分村祝  
するばーやさ。

勝三 あんやれー、尤むな事やいびーん。

武男 いい。あぬ字、くぬ字、何出じやすが

やーでいち、肝ふとうふとうーそーんで  
る話イ。

勝三 はねーかさんでーないびらんやー。

武男 いい。手踊いから笠踊い。棒ん、棒踊

いから相棒。歌三線ぬんでー。

勝三 あんし、我達千原ぬ仲間、何出じやす

んちやいびーが。

武男 とー其処やさ。我達や何がましやらん

ち、皆頭押すとーるばー。



勝三 ヤイサーや如何ちやいやいびーが？

武男 うぬ話ん出じとーたん。やしが大鼓ぬ

無ーんせーやー。

勝三 あゝ、ヤイサーや太鼓が重要やいびー

事…。

武男 小太鼓や米軍ぬ食器代用すんちやしが大

太鼓ぬ思い当たらん。

勝三 （瞳を輝かせて頷く。）

武男 何処まゝがらんかい残てーうらんがやーん

でいち、千原ぬ仲間達家ちわん当とーしが、

まーぬ家ちわん、戦ぬ際に失なたんちわでいち、

だー身てい一ち逃ぬがりーしん、やつとうかつ

とうるやてー事。

勝三 あんしん、防空壕ちわんかい運だせー助か

たる筈でーむん。

武男 言う通り何世帯かー 防空壕んかい入  
つてーたんでいしが、戦うてい戦車し敷  
ち倒とみらつてい、残とーたる防空壕ん、  
飛行場広ぎーんでいち敷ち倒みらつたん  
でい。だー基地ぬ中ぬ事どうやくとう、  
ちやーんならんたんでいさ。

勝三 戦とー関か係わい無ねーん人ぬ大て切しちにそーしま  
でい葬いんちんあいびーがやー。

武男 壕ぬ中までー、いちいち点検さんたる  
筈。あらん、戦うていあつさぬ地じくん取  
てーるアメリカじょいカーが絶い対かん考げいるばーい。

勝三 やいびーさやー。：無らんねー無ら  
ん如、何ぬがな良かんい考げえや無びらんがやー。

武男 ん…。

勝三 ヤツチー。戦前、シマぬ路地小通てい、

アジマ<sup>1</sup> 十字路、十字路んじ踊いたるヤイサーぬ

忘ららん。童肝にんじこー見物やいびー

たん。我達お父が<sup>うふでーくむ</sup>大太鼓持<sup>みむん</sup>つち踊いたる

姿<sup>しかた</sup>や、<sup>なま</sup>今ちきてい忘ららんよーさい。

武男 戦死しみそーちやる汝<sup>いったー</sup>達お父や、太鼓

打ちぬ花形やてー事やー。我にん手<sup>ていふかどう</sup>解ち

受きたん。

勝三 <sup>うふつちゆ</sup>大人ないねー、お父と<sup>ましゆー</sup>一緒<sup>てーく</sup>ん太鼓持<sup>てーく</sup>つ

ち、地んかい天ぬんかい 太鼓ぬ音響<sup>とちゆ</sup>ま

ち、思<sup>うみちつ</sup>切ち踊いぶさいびーたん。

武男 やさ、我やていん習いぶさたんよー。

なーひん、なーひん…。

勝三 …。

武男 戦ぬ近寄ちかてい、太鼓ぬ音ねんはばか憚はばからりーて  
ー事、防空壕くわくくわんかい隠かくち、ちゃーしん残  
さんでーならんで思おもたるむのー…。

勝三 我達お父ちちん、壕くわくくわんかい避難ひなんしてみてーた  
るむんぬ…。 我達千原ちげんぬヤイサー、  
ちゃーがらないびらに！

武男 あんすくとうやー。我達ちがたん踊おどいぶさし  
が、皆みなん見みじふさる筈はずやー。

その時、空の一斗缶いっとうかんを左傍ひだりわきにかか  
えた少年せうねんが通とほる。右手みぎてに小枝せうしを持ち  
エイサーの音頭おんどを取りながら近づちかづい  
て来る。武男たけおと勝三かちさんは顔かほを見合みあわせ

頷き合って少年に近寄る。

武男 この一斗缶、何処にあった？

少年 （驚き、後ずさりする。）

武男 あ、驚かんけー、怒っている訳じゃな  
いからねー。

勝三 いい音だねー。ヤイサー好き？

少年 （安心して） うん。

武男 この打ち方、誰に習ったの？

少年 お父…。

武男 あゝ、お父から…。で、あなたは何処  
の子ね？

少年 …。

武男 あんたちの屋号は？

少年 …アガリ花城。<sup>ハナグスク</sup>

武男 え？ アガリ花城？ そしたらあんた  
は康男兄さんの子ねエ？

少年 うん。

武男 こんなに大きくなつて…。二、三年会  
わないうちに見知ららん<sup>みし</sup>なてい。で、あ  
んた達は今、何処に住んでいるの？

少年 具志川に…。

武男 親戚頼つて行つたの？

少年 うん。お父の遠い親戚つて…。

武男 そーねー。で、今日はお父と来たの？

少年 ううん。お父は後から来るつて。

武男 じゃ、お母と一緒にねー？

少年 うん。

武男 会わしてくれんねー。

少年 でも、お母の叔母さんが死んだから…。

武男 そうねー。病気で？

少年 違う。黙認耕作地という所で芋掘って

いたらアメリカカーに鉄砲で撃たれたって。

武男 はあ？ あの人ね？ あっさみよー！

勝三 それで先つきは驚いたんだね。

少年 （上目使いに）怒わじられるかと思った。

勝三 シマン人オ皆親戚んなえいかとー同いぬむん。何ん

くいーんまじゅーん一緒まじゅーんそーてーるむん、怒らん。

少年 シマン人って、千原の人達？

勝三 ン、千原の人は皆親戚さあ。

武男 いい、やんどー。ちゅけーとないしーじやかた近隣ちゅけーとないしーじやかたぬ年ちゅけーとないしーじやかた上方から、

（少年に）汝達お父からん、何やーくい

ーやー習らたんよー。

勝三 我が習いぶさいねー、お父や兵隊んか  
い取らつてい。

武男 やたんやー。千原や水源ぬ少らさてー  
事、米ー作ららん。主食や芋、粟やトー  
モロコシ、大麦小麦等の種捲きから、大  
豆と「さとーきび」の輪作ぬ仕方までい  
習てい、千原や失なたしが、よーんなー  
んかい、汝にん習すくと心配すなけー。

自給自足ん、今考げーれー。豊かな暮  
しやてーんやあー。

勝三 うー。庭小んかいや、キャベツ、島大  
根、人参、茄子、大蒜、チシャぬ植らつ  
てい、飢する事ーねーびらんたん。



武男 ん、何処まあぬ家庭ちねいん、うぬ当いや植いと

ーてー事やー。（少年に）汝達家んどー。

少年 覚えています。（頷きながら。）

武男 やらやー。

少年 眼を閉じたら、千原の家が浮かんで来  
ます。

武男 またえー、銭ないしんあたんやー。さ  
とうきびと百合ぬ球根。

勝三 やいびーたん。我ていがねにん手助そーいびー  
るむん。

武男 くぬ百合ぬ球根や、銭ないるまでー三  
年掛かたしが、県外んかいん出荷し、さ  
とーきびやかん、いい儲きやたんδει。

勝三 千原や、百合根に育ていーる為ねー、勝

いる土壤やたんでいやーさい。

武男 いい。親球根から片割りぬ球根分きや  
ーに浅く植ゆさやー、あんしーねー、次  
の年、本植えない球根になてい、うり  
から最後ぬ植え付けするばー。

勝三 手間隙かかいびーさやー。

武男 いいあんせー。旧ぬ八月ないねー、一  
坪んかい約三六球なー植ていよー、次ぬ  
春ねー蒼ぬ出じーしが、球根大ぎくする  
為ねー、蒼や全摘み取てい、花や咲かさ  
ん如さんでーならん。

収穫ぬ場ねー、一なー丁寧に作りらん  
でーならん事、人ぬ足らーん、他ジマか  
ら雇らんでーならんたんやー。

勝三 うー。我んにん覚うびとーいびーん。戦前いくさめい

ぬ昭和十七年ねーシマぬ事務所ん建つち  
よーいびーたしが、うぬ前や、シマぬ有  
士ぬ福地家、花城家、多和田家、知花家  
ぬ中庭んじ集荷場ぬ代いそーいびーたん  
でいやー。

武男 何やていん助き合ーてい暮らちよーて  
ー事、千原ぬ人や皆、シマ兄弟ちゅうでいやさ。

少年 シマ兄弟？

勝三 シマの人は皆、兄弟と同じ。家族とい  
う意味さあ。

武男 だから、汝達お母親戚だったら、我達  
ん親戚と同じさあ。

少年 ああ。（納得した様子）

武男 我達ん後から、手合しーてしーうきーが行くから、

ね。とう早く帰りなさい。

少年 うん。（去ろうとする。）

武男 あ、待つて待つて……。その一斗缶は何  
処に？

少年 あ、あそこで拾いましたけど……。

武男 そうねー。まだ在った？

少年 在ったと思いますが……（作りかけの缶  
太鼓を見て）これも上げる。

武男 ありがとうねー。あ、それから、あんな  
たのお父と連絡取りたいので……（ポケット  
トから紙と鉛筆を出しメモる。）これ、  
お父に渡してくれんねー。千原ヤイサー  
を始める準備をしているからさあ。後か

ら行くからね…。

少年頷いて去る。武男と勝三、後姿を見送り。

武男 はあッしえ！ 戦に負きてい、自分達どうなシマン取らつてい、うぬ上うぬい、黙認耕作地んじ撃ち殺さつてい、此んぐとーる事んちんあがやー。

勝三 あてーしまびらん！

武男 猪いぬしとう見ー違ばつペーたんでいせー通らのーあらにッ。頭にくぬひやーたーや、我達沖繩人オ、いちむし扱あちけー！

勝三 戦争じ人殺しん慣りてい、鉄砲ぬ引き

金引ちゆしん、何んでいん思まーんなど  
ーいびーさやー。

武男 戦んでいるむのー、あんし人ぬ心変けいい  
るむんやさッ。あぬ鉄砲撃つちやるアメ  
リカ兵ん、戦んかい出じーる前や、あね  
ーあらんたる筈…。

—暗転—

一幕 二景

武男と勝三が二分した一斗缶を太  
鼓に仕立てるべく、切り口を内側に  
折り曲げる作業をしている。

隣人 えーしッ、汝達や何そーがッ。大概ていげいね

ー姦まさんどーッ。

武男 あ、小父さん、少<sup>う</sup>ふえー忍<sup>に</sup>じてい呉み  
そーれー。

隣人 耳んふぎーるあたいどーやー。

武男 よーさい。分村祝いぬあいびーせー。

我達千原やヤイサー出じやする事んかい  
ないびたん。

隣人 何が、ヤイサーとううぬシチタンバー

クーとう何ぬ関わいぬあが？

武男 くれーよーさい、太鼓<sup>ていく</sup>ぬ代<sup>かわ</sup>いるやいび  
ーんでー。

隣人 太鼓？ 人笑らーち、くりがなー？

武男 うー。既<sup>しでい</sup>に、有志ぬ知花<sup>しでい</sup>さん達ぬ許可  
ん取つてーいびーん。

約百二十年余い続ちやる千原ヤイサー

ぬ太鼓ん、くぬ戦うてい失ないびたん。

ちゃーされーしむがやーんでいち考<sup>かんげ</sup>たる

事に、此ぬ米軍ぬオイル缶。くりやれー

チリ捨て場んじ、ちやつさやていん探<sup>か</sup>め

ーらりー事んち。

隣人 あんしん汝や、うんぐとーる物<sup>むん</sup>さーに

太鼓ぬ代いやならんえーさに。

勝三 太鼓ぬ音や出じらんていん、缶ぬ音や

出じやびーせー。

武男 屋嘉ムラぬ収容所んじ、カンカラ三線

作てい、屋嘉節ん生まりやびたせー。

なちかしや沖縄 戦場になやい

世間御万人ぬ 袖ゆ濡ち



隣人 はーとー。ゆかい感違そーるむんな。  
かんちげー

缶空カンカラや打ちゆるむのーあらん。三線ぬ棹そう  
とう糸ぬ根元いちゆーにむとうるやる。うんぐとーるクワ  
ンカラー、ちゃーし太鼓ぬ代いないが、  
ふりむん。

武男 小父さんが言みせーる通い、確かに太  
鼓ぬ音ー出じやびらん。あんしがよーさ  
い、ヤイサー太鼓ー、音やか拍子へーしる第一でーいち  
やいびーる。

勝三 かんしやーさい、傍わちんかい抱ちーねー  
太鼓ぬちむえーやいびーん。（小枝で鳴  
らしながら）ヤイサーヤイサー ヒヤ  
ルガヤイサー、ア、スリサーサ、ア、ス  
リツ……。 （遠くから軍用機の音）

隣人 アネ。んちや似ちよーるむんなー。缶くわん  
空くわらんち うしえーららんさ。

飛行機（軍用）の通過する爆音。

勝三 肝心な時に、何時もこれだ。

隣人 あぬアメリカ軍用機にかきれー、缶くわん  
缶くわんぬ音ー玩具小ぬ如るある。

武男 我達やていん、本当や太鼓ぬそーむん  
打ちぶさいびーんよー。やしが、無ん物  
ーちやーんならん。仕方ねーらんでいち  
考ーたしが、くぬ一斗缶やいびーん。

隣人 いい。良考ゆうかんげーたん。はまてい作れー。

武男 あんしがよーさい。くつさせー足らー

んよーさい。小父さんさーにちゃーがら  
ないびらに？ なー五缶びけーん。

隣人 えー、あんしやー？ …いい、我が考  
いさ。心配すなけー。

武男 あ、うー。有難でーびる。やいびーし  
が、なー一ち心配事ぬあいびーん。

隣人 なーひんなー？ 何が何やが？

武男 先程小父さんが、耳んふぎーるあた  
いぬ  
姦さんでい言みせーたしが、近所隣いぬ  
人達んあん思とーんでーやーさい。

隣人 あらんあらん。皆くぬ戦んじ、爆撃ぬ  
やー、艦砲射撃ぬやー受きてい、また毎  
日あぬ飛行場から出し入りする軍用機ぬ  
爆音に比れー かき 何ーんあらん。先さ言ち きつ

やる如やさ。

武男 あねーやいびーしが…。

隣人 えー、じこー恐るさたんやー。爆撃音

ぬん大<sup>まぎ</sup>さたしが、雨ぬ如し降いてー事、

弾んかい当らんがーやーんち、肝冷ち、

あつさみよーツ。

武男 やいびーたんやー。我ねー、足ぬ<sup>ひさ</sup>かな

ーんハーメー負<sup>う</sup>ーふあし、走<sup>は</sup>えーんなら

らん、ゆー命凌じよーいびーん。

勝三 小父さん達や、山原ぬ何<sup>ま</sup>処<sup>あ</sup>んかい避難

そーみせーたが…。

隣人 山原ぬ山道平道、まーんくいーん歩<sup>あ</sup>ち

やんでいさ。よー、千原ぬ疎開地や羽地

やたしがやー、だー我んねー読谷飛行場

んかい徴用さつとーて事、妻ぬしたたか

哀りさんでい。母親と子達三人連てい歩

ちよー。食むしん無らん、チーパツプー

（石路）潮水し煮ち食だんでい。

勝三 チーパツプー潮水さーに？

隣人 だー、水ん塩ん無らんどうあくとう。

武男 皆、ちやつさが哀りしみそーちやらや

ー。口ねー出じゃしみそーらんしが…。

隣人 いいー。（感慨深く）

勝三 よーやく千原んかい帰ていちん、アメ

リカー上陸地やくとう、爆撃ん大当い。

戦車し敷ち倒みらつてい、千原ぬ姿ー無

らんなてい…。

隣人 戦争や恐るしーむん。何ん彼ん全失な

てい：人ん、家ん、郷里<sup>シマ</sup>ん失なたん。

武男 米軍ぬ基地びかーん広がいちきてい。

戦に負きたんでいち、物ん言らさん。シ  
マ取い上ぎらつてい、なー、帰いるシマ  
ん無らん！

隣人 我達シマびかーのーあらん。中飛行場

広<sup>ひろ</sup>ぎーんでいち、周囲ぬシマジマ取い上  
ぎてい、金網<sup>かく</sup>し<sup>め</sup>囲てー事、親御先祖ぬ墓<sup>はか</sup>  
詣<sup>め</sup>んならん。

勝三 我達生まりジマや基地<sup>な</sup>ぬ中<sup>か</sup>。

隣人 ん：（感慨深げに）

武男 何処ぬ家ん百合ぬ球根植いてい、花や  
咲かさんたしが、緑ぬ展<sup>ひろ</sup>がいや心安<sup>やし</sup>まり

ーたん。

隣人 ん…県外んかい出荷するあたいたい、シマ  
上げていぬ大仕事やてー事やー。

武男 砂糖黍ん植てい、収穫前ねー銀色ぬ花  
咲かち、あぬ美らさたしよー。

勝三 武男ヤツチーや、絵描ちみせーてー事  
やー。風景んかいや人勝い肝入つとーた  
る筈。

武男 なー、あぬ風景ん描からんなてい。

隣人 七月ねー、土帝君ぬ前んじヤイサー踊  
てい、うぬ後、各家庭廻てい、千原ぬ仲  
間ぬ健康と村ぬ繁栄、豊作ぬ念願し栄け  
てい来る、あぬ生まりジマや基地ぬ中…。

三人とも千原の辺りを見つめる。

武男 やくと、百二十年余い<sup>ち</sup>続ちやる千原ヤ  
イサーヤ、是非<sup>じひ</sup>とうん<sup>ぬ</sup>残さんでーッ。

隣人 やんどー。と、あんせー我ねー一斗  
缶探めーて来ーいー。なーちゅちばい  
はまとーけー。

武男 頼まびたんどー小父さん。

隣人 いー、まかちよーけー。（去る）

武男、作つた缶太鼓を両手に合わ  
せ持ち、退場の準備。

武男 裏ぬアシビ一ナーんかい皆集まとーる  
筈、届きていくーいー。

勝三 あ、うー。



武男 残いぬ缶太鼓 作とーけー。運人はくばしやら  
すさ。

武男が去った後、勝三は缶太鼓を  
仕上げる。裏の広場から缶太鼓のエ  
イサーが聞える。勝三は仕上げた缶  
太鼓を持って歌いながら一緒に踊り  
だす。

勝三 久高万寿主や

美ら妾 とめーててんどー

ヨー 玉黄金 今宵ぬ話ぬ 面白

スリ サーサ ……

—幕—

二幕 一景

六七年後の二〇一六年、夏。アシ  
ビナーのベンチに83才の勝三と武男  
の息子勉が腰かけている。伴子と陽  
子が湯茶のセツテング。軍用機の飛  
行音。皆、耳を塞ぐ。怨めしそうに  
飛行音の方を見る。

勝三 何時ちやーいつたー汝達びかーん、難儀なんじしてみていやー。  
陽子 いいえ、楽しみながらやっているの  
で。難儀なんじなんて思っていないです。

伴子 そうよ、おじい。これでも千原郷友会  
の一員よー。エイサーの時期が来たら、

私達女性部も肝ワサワサーするさー。ね  
ー部長さん。

陽子 あね、また人からかう。部長さんて言  
わんでつて言ったでしょう。陽子と呼ん  
で、陽子と…。

伴子 いくら友達でも、部長さんは部長さん  
でしょ。

陽子 また…。（苦笑い）

勝三 汝達は何<sup>ぬ</sup>ーんくいーん<sup>かいし</sup>加勢するから

千原エイサーん<sup>ちぢ</sup>続ちよーる。

勉 そーだよ、女性部の援助なくして千原  
エイサーは成立たん。

伴子 うん、まあお役に立っていると自負し  
ております。（クスツと笑う）本当は、

若い頃からエイサーの列に入りたかった。でも千原エイサーは男だけの集団。昔からの仕来りだから、どんなに踊りたくても叶わないので、私達は支える側に回るしかないから…。

小学5年生の竜太登場。皆の後に廻り、大人の話に興味津津。

勝三 とーうぬ肝入り、皆忘んわしーんなよー。

陽子 はい。若い娘達にもしつかり教えていきます。千原エイサーを護って後の世に受け継ぐのは、男だけじゃなく、女達も頑張らないといけないって…。

勉 それでこそ千原郷友会の女性部やさ。千

原ヤイサーンでい言ちよーたる昔から、

女達が支えてくれたと思うよ。

竜太 え？ 昔はエイサーの事をヤイサーと

言つてたの？

伴子 あ、竜太：いつの間に：

竜太 うん、さつき。おばあちゃんの後から

そつとね。ねー、大きいおじいちゃん：

勉 え？ あんしーねー是れー、健一孫？

勝三 いー、我曾孫。

勉 あいえーなー。我達お父や孫までる見

ーちよーしが、貴方曾孫まで見ーじみそ

ーちえーさやー。話しねー聞ちよーいび

ーたしが…。

勝三 汝達お父、武男ヤツチーん、なー少小<sup>うひぐわー</sup>  
長生ちちそーれーやー。

勉 うー、あんしん定みるやいびー事。…あ  
んし、あんたの名前は？

竜太 竜太です。小父さんは？

勉 あ、ツトム。竜太君のおじいちゃんの  
又従兄になるよ。竜太君のお母さんが東  
京へお嫁に行つて、長い間帰つて来なか  
つたから、初めて会うねー。

竜太 はい。よろしくお願いします。

勉 あんし、ご両親も一緒に…？

竜太 ママと一緒に帰つて来ました。パパは  
エイサーの当日来ますので紹介します。

勉 ちえー、是<sup>く</sup>ぬ童ーしつかりそーるむん

なー。

竜太 はい。皆んなに言われます。ねー小父

さんヤイサーって…

勉 あ、そうだった。あははは…。エイサ

ーに興味ある？

竜太 はい、DVDで見ました。

勉 DVD？

勝三 ああ、健一がよー、去年、ドイツ公演

撮てーし送とー事やー。

勉 あ、エイサー習ち呉りんでいち要請ぬ

あたるドイツやいびーさやー。

竜太 ねー、ツトム小父さん。エイサーはヤ

イサーって言っていたの？DVDには「

千原エイサー」って書いてあったけど。

勉 うん今はね。でも昔はヤイサーと言っ

ていたんだよ。

竜太 いつからエイサーになったの？

勉 戦前：と言っても分からないかな？昔、

沖縄に戦争があつた事は知ってる？

竜太 はい。ママに聞きました。ママもおじ

いちゃんも生れない前に、世界第二次大

戦というのがあつて、その飛び火で日本

とアメリカが戦争になつて、米軍が沖縄

本島に上陸したのが、北谷から読谷。だ

から千原は真先に戦車が来て、激しい攻

撃に襲われたって：

勉 はーとー、くぬ童ぬ頭よー。うびらじ

訊<sup>ち</sup>ちん、頭ぬ中んじ整理し、きちんとう



反答さびーんでー。

竜太　へへへ、実は昨日、おじいちゃんの本棚から見つけた本を読んだばかり。

勝三　何ーん分からん事あんしあびらりーる。我達やどうか知り過ぎてい、ありんくりん頭から離りらん。あんすくとう  
一口ちゅくちさーねー語ゆーさんばよー。

勉　あんしん貴方、昨日読でいちゃーきんでいどーさい。竜太君頭ーどうく珍みじらさぬ。

勝三　健一孫でーむん（頭を突き）此まん似ちよーんよー。

勉　やいびーさ。大学教授でーむん。伴子さんや大学教授ぬ奥さんやしが、ここではエイサー仲間しんかぬ世話係、腰を低くして

…。孫の竜太君ぬ将来まきん大くない筈、  
楽しみやんやー伴子さん。

伴子 いくら又従兄でも、からかわないで下

さい。千原郷友会の会長さん。

勉 あ、やられました、あははは…。

竜太 おばあちゃん…。

伴子 大丈夫。一応誉められているんだから  
…おばあちゃんはもつと準備があるから  
また後でね。

伴子、竜太の肩を愛しそうに抱い  
て、陽子と一緒に去る。米軍用機が  
離陸する音。皆耳を塞ぐ。音遠ざか  
る。

竜太 ツトム小父さん、僕の質問にまだ答え  
ていません。

勝三（勉に） ええ…。

勉 やいびーさ んちや。竜太君ご免。大  
人はあま走いくま走い横道に入つてねー、  
だから話しもすぐ横道に入る訳よー。

あ、千原ヤイサーの事だったねー？  
実は私も分かん。

竜太 え？

勉 千原は昔から農業のシマでね。

竜太 シマ？

勉 小さい集落の事を沖縄ではシマと言っ  
ていたんだ。今の字あきと同じさ。最初は何

もない野っ原だったんだよ。そこに首里から：あ、首里分かるよね？

竜太 はい、昔王様が住んでいた首里城がある所でしょう。

勉 そう。言い伝えによるとその首里から昔士族の人が：あ、士族と言ったら、武士、士さむらいの階級さ。その士族である知花包規という人が、今から約二百年前の一八二五年に、千原に初めて住んだって。

竜太 武士なのに何んでここに：？ 廃藩置県けいはんちよの頃でもないのに：。

勉 そうだね。廃藩置県の年より五四年前の話しさ。この沖縄に大きな台風が来て大きな被害があつて、多くの人が死んだ

らしい。農作物も取れなくなり大飢饉になつたつて。王府は災害の時の為に貯めた穀物を民に配つたんだけど、それでも足りなくてね…。首里の士族も同じさ。王府からの支給金も出せなくなつて、地方に移らせた訳。

竜太 士族は全員？

勉 いいや、下級士族の一部だけ。

竜太 各地方に？

勉 そう。琉球国内だけでなく、被害に遭つた地方の民百姓達も、中国の福建省へ、難民として送られている。

竜太 難民問題は昔からあつたんですね。

勉 そうだよ。と、今から大事な事を話す

からよく聞いてよ。あの時、筑登之ちくどうんの位  
にあつた知花包規はね、野里村の祝殿内ヌンドウチ  
に…

童太 ヌンドウチ？

勉 うん、大宅屋ウエーキヤ。つまり大地主の家さ。

そこに農作業員として雇われてね、陰ひ  
なたなく働いて精いっぱい主人に尽した  
のでね、その人柄に感心した主人から、  
野国村のはずれにあつた土地を分けて貰  
つて、そこに家を建てたつて。これが千  
原の始まりさー。

童太 ふーん、面白い。まるで小説みたいで  
すね。それから？ ね、それから？

勉 待つて、喉ぬでいからからーツし、（茶を啜

り）その後ね、首里や那覇、久米クミンダから移住して来て、七、八世帯の屋取やどちいになつて…

竜太 屋取い？

勉 何処の地名にも入っていない、士族の溜り場をそう呼んでいた訳。そして次第に人が増えて十二、三名の男子が集まり、祖先に感謝して供養し、村人の娯楽も兼ねて、独特のエイサーを始めたのが、千原ヤイサー。

竜太 ふーん。じゃ何故、千原エイサーは男だけなんですか？

勉 それはね、格式を重んじる士族の仕来たりが厳しくてね、女が芸能に入る事は

許さなかつたんだ。沖縄には各地のエイサーが数多くあるけど、男子だけのエイサーは千原だけ。昔の士族は空手が身につけているから、空手の手をふんだんに取り入れた訳。これが千原エイサーの特色なんだよ。

竜太 だから、他のエイサーと比べると勇しいんですね。じゃー、歌の前に「南無阿彌陀仏」という言葉が入っているのも？

勝三 よく気が付いたね。この仏教用語が入っているのも、昔の千原の人達が、ご先祖の供養を大事にして始めたんだって。

竜太 そっかあ。それぞれ理由があるのね。

千原エイサーの衣装が、空手着に脚半、



タスキにハチマキというのは、元元空手の型が入っていたからですか？

勉 さすがあ。よく読み取ったね。昔は、バサージンにワラ綱の帯をしめて、輪になつて踊つたんだよ。

勝三 大正四年に大正天皇御即位の祝賀会が北谷村であり、また衣装が変わつた。

竜太 あ、その時はまだ北谷村だったのね。

勝三 あの北谷村の頃の衣装は、紺クシチ地にカタカシラ、タオルのハチマキに博多帯という出で立ち…。

竜太 待つて待つて、カタカシラつて何？

勝三 えー勉、汝がるない、バトンタッチ。

勉 あははは…カタカシラというのはね、

女の人のカンプーと同じ。カンプーは知ってる？

竜太 知ってる知ってる。ママが琉球舞踊を踊る時に結ぶ髪型でしよう？

勉 そう。昔は、士族の男はカタカシラを結っていたからね。でも女のカンプーは大きめ、男のカタカシラは小さめに結ってあった。

竜太 ふーん。

勉 明治十二年の廃藩置県後、士族の階級もなくなり、男子は髪を切らされたが、士族の名残りだね、カツラを作って冠つた訳さ。

竜太 何んでも歴史に繋がるんだね。

勉 そうだよ。千原エイサーの自慢は、誇

り高い千原の歴史に沿って振り付けられている事さ。だからエイサーの型も崩れる事なく、原型のまま受け継いでいるんだよ。竜太君も千原の血を引いているから、誇りを持てるね。

竜太 はいッ。僕もエイサーに出ます。ママは、せっかく帰って来たのだから思い出に、エイサーに参加したらって言ってるけど、僕は思い出しません。夏休みは毎年帰って来て、エイサーに出ます。

勉 それはいいねエ。頼もしい。ママよりしっかりしているんじゃないか？

竜太 はい、よく言われます。

勉 そうか、あははは……。じゃあ、早速工

イサーの稽古しないとね。

竜太 はいッ。大きいおじいちゃん、僕エイ

サーの稽古に行きます。

勝三 ああ、行っておいで。太鼓の音を辿れ

ばすぐ分かるから……。

竜太 はいッ。（去る）

勝三 小学五年生……。

勉 え？ 小学校の五年生？ 丈程たきこどろんあく

とう、中学生やあらんがやーでい思とー

いびたーん。

勝三 丁度ちよーどろ、あぬ年頃やてーさやー。屋良飛

行場ぬ側んじゆふいんじ溝堀しみらつさせー。

勉 溝堀り？ ああ、飛行場守いんち、戦

車落すんでいち掘たる？ 今ぬ時代ねー  
考ーららんやーさい。

勝三 学校上ぎていぬ奉仕作業やてー事るな  
いたる。身体ぬ弱さる生徒や、ちやー恐  
きらーたんよー。あぬ時ねー、自分達が  
掘たる溝ぬ、屋良飛行場守いん、御国ぬ  
為に役立ちゅんでい思とーてー事、我ん  
ねー難儀ん厭らんたん。

勉 我達お父や、うにーねー嘉手納ぬ精糖  
工場んじ働らちよーたんでしが、重労働  
やたる風儀やいびーん。貴方達ん苛酷な  
奉仕作業やいびーてーさやー。皆さーに  
苦勞し守たる飛行場ん米軍ぬ基地になて  
い、悔でいん悔まらんでーやーさい。

勝三 あらん、あぬ苦勞ぬあてー事る、戦後  
ぬ苦勞ん乗ぬい越くてい来る。またよー、奉  
仕作業ぬ時ねー、近とさ通ととーたる軽便鉄  
道ぬ汽車が、アフィー、アフィーんでい  
ち元氣付きらつたせー。

勉 うれー唯一ぬ慰みやいびーてーさやー。

勝三 八人家族ぬ中、戦んじ六人ぬん失なた  
しが、汝達お父が、農作業ぬありくり習  
らーち呉くてい、お母と二人齒は嚙くちやーち  
よーてい野菜や作せてい、市場小んかい売  
が行じ、うぬ儲たきし暮くらちよー。

うぬ後我んにん嫁取よめてい、健一が生ま  
りたるばーねー、妻ぬトヨやかお母が嬉う  
さし赤飯アカメ炊ちよー。

勉 覚びとーいびーん。我んねー五ちがな

いびーたらやー。馳走くわっちーさびたん。健一が

生なまりたる翌日なちややいびーたん。サギジヨ

ーキーんかい広びぎてい…。

勝三 親戚えーかや汝達なびかーんるやてー事、多多うふうふ

ーとう届とどきらんねーでいちてー。

勉 あかまーみー小豆まん入まつち美味あまいびーたん。

勝三 あんないかんないし健一育そだててい、

大学だいがくまでやらすせー容易やすやあらんたん。

トヨんかいや苦く勞らうかきてい、早死はやじにしみ

ていねーらん。

勉 あんしん孫ひまん見みちから逝いじよーみせー

事、幸あせやいびーてーさ。

勝三 あん思おもてい安やすんじらんでーならんやー。

健一、千原郷友会の幟を二、三本  
持って出てくる。

健一 また、おじい回想録が再現されていて  
すか。

勝三 とーなー今日やうつさまでい。

勉 いやんまが 汝孫ぬ童太よー、いい跡継ぎないんで  
ー。エイサーん出じーんでい。

健一 郷友会ぬ子、くわんまがぬちやー孫達や千原エイサーぬ後  
ちぢ継どうし育ててい行かんでーならん。  
く小さいにから出じゃすせーましやいびー  
さ。あんしが童太ー出じらんでい言たる  
むん、貴方がる説得しみそーちー？

勉 あらん、話し小そーる中に自分くる出  
どう



じーんでいち、走えーし行ちゆたん。

健一 やいびーみ。（苦笑）にふえーでーび  
る。

エイサー仲間が、血相変えて

飛び込んで来る。

青年1 会長、大変です。

勉 どうした。

青年1 （息を切らしながら）海人と直樹が、  
とつくみ合いの喧嘩になる寸前です。

健一 ？

勉 何処で？

青年1 軽便鉄道の嘉手納駅跡です。

勉と健一は顔を見合わせ飛び出す。

勝三おろおろしながら二人の行く先を気にかける。米軍用機の飛行音が遠ざかる。

勝三  
何事なにごとがやら…。

— 暗転 —

二幕 二景

海人と直樹がエイサー仲間に囲まれ睨み合っている。鼻息が荒い。

勉、健一、青年1が駆け込む。

勉 二人とも何しているツ。

海人 あ、伯父さん。直樹が：

直樹 少し遅れたただけだろう。

海人 もうすぐ本番だというのに、先週も休んだらう。

直樹 あの日は「辺野古違法確認訴訟」の裁

判で県側が敗訴になった。傍聴していた

仲間とのミーティングが長く延びたから。

海人 だからって休むことは無いだらう。

直樹 疲れが溜ってたんだ。

海人 他の仲間も仕事で疲れているのにエイ

サーの稽古は欠かさないよ。

直樹 普通の仕事の疲れとは違う。身体を張

って機動隊とやり合うんだ。

海人 それは分かるよ。俺も時々参加しているから。だけど肉体労働している仲間もいるんだよ。どんなに疲れていてもエイサーの稽古は休まないさ。

直樹 ああ、海人兄はにーにーご立派だよ。空手で身体を鍛えているからな。

海人 だから何時も言っているだろう。日頃から鍛えておけて：この一年空手道場にも顔を見せないのは精神が弛んでるんだ！

直樹 仕事もしながら、休みの日や身体が空いている日は高江に行っているのにな！

海人 直樹、今は何が大事か考えよう！高江の問題も大事だけど：

直樹 あね、言ったよね。高江の事も大事だ  
つて：兄は分かっている癖に、何んで俺  
ばかり責める。エイサーの稽古も来てい  
るだろう。

海人（直樹の胸ぐらを掴む）お前が遅れた為  
に練習が遅れる。皆んな大事な時間を割  
いて来てるんだぞ。これでは他の人に示  
しがつかん。千原エイサー保存会長の息  
子だろうがあ。立場を弁<sup>わきま</sup>えて行動しろ。

直樹 兄の言ってる事は分からん！「辺野古  
の事や高江の事は、俺達と切り離せない  
問題だ。」何時もそう言ってるじゃない  
かッ。

勉 直樹！

勉、直樹の前に立とうとするが、  
健一に止められる。

海人 伯父さんすみません。今日は言わせて  
下さい。

勉 いい。言いなさい。これは近頃、やる  
事なす事中途半端だから、何とかせんと  
いかんでい思とーたんよー。言ちとらせ  
ー海人。

海人 はい伯父さん。直樹、確かに千原と今  
の辺野古と高江の新基地の件は切り離せ  
ない。俺達の幻の郷里、心の郷里も米軍  
の基地になったからなあ。だけど千原工  
イサーも大事だろう？

直樹 分かってるよ。俺たち千原郷友会が

先祖から、代々先輩から大事に受け継い

だエイサーだから…

海人 分かっているのに何んで？

直樹 おじい達の時代に戦争があつて、終戦

と同時に屋良飛行場が米軍に没収され、

その飛行場を広げる為に、千原をはじめ

周囲の集落も有無を言わせず取り上げた。

71年経った今、また同じ事をしようとし

てるんだよ、米軍は…

海人 ああ、言われんでも千原の仲間は皆な

知っているよ。だから行くなとは言つて

ない。エイサーの稽古に支障をきたすな

と言ってるんだ。疲れて稽古を休むくら

いなら、自分の体力にみあった行動をし  
ると言ってるんだ。

青年1 海人、それは少し言過ぎだよ。直樹  
は直樹なりに一生懸命やってるよ。

青年2 そうだよ。俺たちも交代で高江に行  
ってるが、昨日今日だけじゃない。もう  
何年も続いているんだ。

青年達 そうだ、そうだ。

海人 確かに何年も続いている。辺野古はも  
う二〇年も続いた。裁判中で辺野古は工  
事を中止しているが、高江は今、工事を  
始めようとして、工事用の道路を作る為  
に森の木まで切り倒された。しかし：

青年1 しかしも何も：



海人 昨日の新聞で見たらう。小型無人機ド

ローンで撮影した写真が大大まぎまぎとう載って  
いたさ。その写真からだど、幅六メート  
ルほどの道が毎日二百メートルずつ延び  
るそうで、今後も大規模な森の伐採が続  
くという。

直樹 だから、どんなに足掻いても俺たちの  
行動は無駄だということのか？

海人 そうは言ってない。この件は時間が掛  
かる。俺たち個人の問題ではない。

辺野古訴訟は、県が敗訴になっても、

「NGO」や「反差別国際運動」の団体  
も動いているだろう。ジュネーブの国連  
人権理事会で、沖縄の東村高江周辺のへ

リパッド建設の現場に、日本政府が五百人規模の機動隊を出し、「過剰な数の機動隊によって、工事に反対する市民の強制排除など抑圧的な手段を取っている」と指摘したからね。

青年1 やつと認知されましたね。「沖縄の人々の一貫した反対にもかかわらず、日本政府は計画を進めている」と強調し、更に、現地を取材中の沖縄タイムスと琉球新報の記者を機動隊が強制排除した件も、「報道の自由が脅威にさらされている」とも指摘された。

青年2 それは評価したいです。沖縄県内外、いえ、世界中の有識者が同じ見解を示し

始めました。

直樹　これが：個人の問題ではない？　沖縄  
で起こる事はすべて、沖縄の人間である  
俺たち一人一人に関かわる問題じゃない  
か？　基地問題にしろ、米兵の性犯罪問  
題、米軍用機の墜落問題、どれも、何時  
俺たちに降り掛かるか分からない。

沖繩の人間は毎日危険に曝されている  
じゃないか。特に俺たちは嘉手納飛行場  
というでかい基地を抱え込んでいるし：  
青年1　だから俺たちは今、高江に行つて、  
米軍のヘリパッド建設を阻止しようとし  
てるんです。例え無理だとしても…。

青年2　辺野古の埋め立て阻止も、  
沖繩人が

ウチナーンチュ

同じ気持ちで草の根運動を続けて来たから、世界の有識者にまで伝わって行ったんだ。

直樹 東京では、全国爆音訴訟連絡会が開かれて、命を守る闘いが強化されたという事ですよ。（健一に）

健一（頷く）

青年1 「沖縄では、沖縄戦で被害に遭った県民が反対する中、日の丸をつけたヘリが米軍事基地を造るために飛んだ」と指摘しました。

青年2 祖国復帰をさせたのは、米軍から日本政府の植民地にする為だったのかと、俺の親父は言っていますよ。

青年達 そうだ、そうだ。祖国復帰運動に参  
加した、我達<sup>わたくし</sup>お父、お母もそう言つてる。

勉と健一は普段見せる事のない息  
子や若者達に頼もしさを覚える。

健一 海人、お前の負けだな。千原エイサー  
の仲間は、お前が思っている以上に、基  
地問題に対する意識が高い。いい仲間じ  
やないか。

海人 だが親父…。

健一 大丈夫。これだけ米軍基地に対する意  
識の高い仲間が、お祖父さんの代にふる  
さを失なつた仲間が、千原エイサーか

ら離れる訳がない。

勉 親として直樹の行動が気になっていたが、千原エイサー保存会の会長としてはなお気になっていた。みんな仕事をしながら稽古に集まるのだから、かなり無理をさせている。こんなに無理をさせて千原エイサーを続けられるのかとね…。

（直樹に）お前の思いも聞くべきだった。

直樹 悪かったよ。話す余裕が無かった。

勉 もう分かったから…。

何時の間にか、陽子と伴子が仲間にまぎれ込んでいる。

陽子 さあさあお茶にしよう。腹が減っては

何とやら：サーターアンダギーもポーポ

ーもあるよ。好きな物からどうぞ…。

伴子 はいはい、みんなあっちへ… 稽古の

前に食べておきなさい。早く早く…。

—暗転—

二幕 三景（一景と同じ）

皆が飲食をしてる所に青年3が駆け込む。

青年3 えー、大事なとーしがッ。

海人 またお前か。今度は何？

青年3 今、六時台のニュースでやっていた  
んだけど、また米軍用機が墜落したそう  
だ。

直樹 え？ 何処に？

青年3 国頭村辺戸岬の東側の海に：  
海人 あそこは米軍の訓練区域だ。

直樹 で、飛行機の機種は？

青年3 海兵隊の先頭攻撃機AV8Bハリア  
ー。落ちたのは午後二時前で、四〇分後  
に操縦士は救出されたそうです。

直樹 やはりあの戦闘機か。ハリアーは一九  
九四年九五年に続けざま墜落して、復帰  
後十九回も事故を起こした問題機種なん  
だ。



青年1 はっしえ、大事でしやつさー。

青年2 そんな飛行機を俺たちの頭の上から

飛ばすとは…。

直樹 現場の被害の様子は？ 船舶とか…。

青年3 それは無いみたいです。

海人 ま、落ちたのが訓練区域で、被害が無

かったのは幸이었다。

直樹 立入り禁止区域だから人身事故は免れ

たとしても、戦闘機の油は洩れているに

違いない。

勉 何という事だ。墜落事故をいったい何

度くり返せば…。

健一 全くです。うるま市石川のジェット機

墜落事故から六〇年余り経っているとい

うのに、未だに絶えない。

勉 基地がある故の事故、その度に「もう二度とこの様な事は…」んでいち米軍側は謝罪するが、何十年も同じ言葉を聞かされているよ。

健一 しかもそのほとんどが、この嘉手納飛行場から出入りしている軍用機だ。一歩間違えば、人の命や街の財産が一瞬にして奪われる。

勉 一九七二年の本土復帰から数えても、米軍用機の墜落は四五、六件じゃないだろうか。という事は毎年落ちている計算になる。部品落下や不時着等を合わせるに五百件余る筈。日常的になって感覚が

鈍っているが、振り返ってみると毛<sup>き</sup>ぶり  
立ち<sup>だ</sup>ちやーするよ。

健一 今回の件でおそらく、革新系の市町村  
は海兵隊に抗議をするだろう。

海人 嘉手納もですよ。

健一 ああ、勿論だ。一番問題の軍用飛行場  
を抱えているんだから。おそらく、一両  
日中に町会議が開かれよー。

青年1 いっその事、基地が全部無くなれば  
いい。そう思っても、米軍がそう簡単に  
引き揚げる訳はないしなあ。

青年3 当然だよ、何考えてる。基地で働い  
ている人は仕事を失い、土地代で生計を  
立てている人は、収入が無くなって忽ち

困るだろう。

直樹 それは違うよ。もし自分達の土地が返  
つて来たら、それなりの方法を考えるさ。

青年3 仮に、もし返つて来たとしても、俺  
たちの土地はあの飛行場の中だぞ。コン  
クリートで固められている。畑にするに  
は金と時間が掛かるし、汚染されていた  
ら、以ての外だ。

勝三 例え、どんな状況でも、あの千原が返  
つて来れば：親御元祖ぬ懐んかい抱かり  
ーる心地くくちでーやー。

青年3 海人のおじい、うれー夢ぬまた夢る  
やいびーる。

健一 確かにあの飛行場は半永久的に戻らな

いでしょう。しかし、もし戻る日が来る  
としたら、土地の還元法はその時考えれ  
ばいい。諦めて希望を失なつてはいけな  
い。君たちの子や孫の時代、否もつと後  
だろうが、常に希望を持って生きなきゃ  
いかん。空論だと思うだろうがな。

青年3 仮に俺たちの千原が戻るとして、経  
済状況はどうなるんですか？

勉 生意気に…

健一（勉を制して）そこが一番気にかかる  
問題点だね。土地の賃貸料、所謂軍用地  
料で暮している人、それを元手に商売を  
している人、また軍用地料で子や孫を大  
学まで卒業させたという人もいる。その

人達は皆、基地の恩恵だと思い込んで  
る。だから、基地絡みの事故に抗議する  
集会にも顔を出せない。その筋の人に睨  
まれるからね。でも卑屈になる事はない。

青年3 卑屈になんか：

健一 そう、それはよかった。那覇のおもろ  
まち知っているね。あそこはずいぶん発  
展したよ。あそこの地主が軍用地料を貰  
っていた時より、解放後の資産税が、な  
んと五〇倍から百倍になったそうだ。税  
金が増えたという事は収入が増えたとい  
うこと。近場で見ると北谷の美浜が、解  
放後は五倍だそうだ。という事は、如何  
に軍用地料が安いかだね。

青年3　へえー、驚いた。

直樹　<sup>ウチナーンチュ</sup>沖縄人はとことんバカにされてる。

海人　米軍は、終戦から七一年経っても占領地だと思っっている。それをバツクアップしているのが日本政府だ。

直樹　特に今の政府は、政権を楯にやりたい放題だ。有識者は独裁者のヒトラーを思わせると言っている。

海人　やさ。あまりの弾圧に、県知事は耐えかねて「沖縄人ウシエーターナイビランドー！」と叫んだ。

直樹　あの時は胸がすかつとした。沖縄県民の思いを代弁したのだから…

青年達　そうだ、そうだ、やんどーやんどー。

海人　そこで俺たちは何をやったらいいか考  
えよう。沖縄人は昔から、外交で東南ア  
ジアを束ねた歴史があり、その精神は誇  
り高い。今や世界の各国に移民として羽  
博き、実績を積んでいる。

直樹　もうすぐ世界のウチナンチュ大会だ。  
海人　その第一回に参加した千原エイサーは  
六回目の今年また出る事になった。去年  
はドイツやハワイで文化交流をして来た。  
会長、俺たちはふるさとを思う千原魂  
で、世界へ翼を広げ、昔の琉球人のよう  
に文化外交で各国と繋がって行きたいと  
思います。なアみんな！

青年達　ああ、やるぞー！



勉 うん、それでなくてはいけない。若者

は、例えどんな状況にあっても、常に輝いてほしい。否、輝くべきだ。

陽子 そうよ、勉兄さんも若い頃はまぶしいほど輝いていました。

勉 今は頭が輝いているがね。

竜太 僕も出ていいですか。

勉 ああ、いいに決まっているさ。竜太君は千原エイサーの未来の任い手、未来の星だから。

伴子 竜太の衣装はおばあちゃんが揃えてあげるからね。千原の大事な星だから…。

エイサーの歌が聞こえる。

—幕—

エピソード

客席に千原エイサー入場。ひとしきり踊った後、幕が上がり舞台では出演者達がエイサーを踊っている。盛り上がった所で幕が下りる。客席のエイサー隊退場。